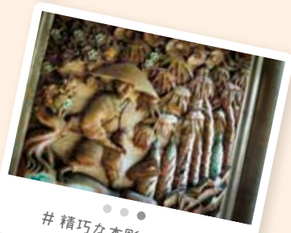
＃オオイタ レキシ旅 2024

大分市内にあるとっておきの
文化財の魅力を
お届けします！

－第２弾－
参勤交代道路
＆
丸山神社

Imaichi ishidatami
＃風情残る春の石畳

＃丸山神社　楼門


＃精巧な木彫りは必見

宿場町の風情を伝える
参勤交代道路（今市の石畳）と丸山神社

大分市西部の野津原地域には、江戸時代に参勤交代道路として使われていた石畳が残っています。
この石畳は熊本と大分を結ぶ肥後街道の一部で、660mにわたり今でも石をきれいに敷き並べた様子を見ることができます。
また、石畳を南に進むと現れる「丸山神社」も外せません。石段を登ると迎えてくれる立派な楼門（ろうもん）は高さ８ｍあり、十二支の生き物や二十四孝の人物像など細やかな彫刻も見どころです。その中でも、酒造の工程を彫刻したものは他に例を見ないものです。
今でも残る宿場町の風情や珍しい彫刻が残る丸山神社など、石畳をゆっくり歩きながら歴史に思いをはせてみてはいかがでしょう。

Point

春になると桜が咲き誇る参勤交代道路は県指定文化財であるとともに、文化庁選定の「歴史の道百選」にも指定されています。

Access

所 在 地：今市2568
移動時間：大分駅から車で約45分
駐 車 場：今市石畳広場利用者駐車場（無料）

Next Journey!
次回は西寒多神社
萬年橋・神庫
です。

問　文化財課　☎578-7546

Q 市報クイズ

○に入る言葉は何かな？

スマホかはがきで応募！

警戒レベル４「○○○○」発令時は、危険な場所に居る人は必ず避難！

ヒントは、この市報の中にあります。

正解者の中から抽選で、ごはんのお供セットを3人にプレゼント！
※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

応募方法
スマホ　右の二次元コードから応募してください。
はがき　はがきに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、市報の感想を記入し、６月15日(土)〈消印有効〉までに広聴広報課（〒870-8504　荷揚町2-31　☎537-5713）へ。

5月号「市報クイズ」の答え
脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動の愛称は？
「デ コ 活」

編集担当より

今号の表紙は、４月１日に開校した「大在東小学校」！
市内小学校の新設は19年ぶりです 😊🎉
児童は、「きれい！」「外の階段が大きいんだよ」と新校舎を紹介してくれました。学校生活、楽しみですね ♪♪

初めての入学式

４月11日、１年生118人が入学式で笑顔を輝かせました
これから全校児童624人が、新たな学び舎で過ごします

市民図書館からのお知らせ

児童書のリサイクルフェア　無料

不要になった図書の無償配布
日　時：６月22日(土)
　　午前９時30分～11時30分
　　午後０時30分～２時30分
場　所：市民図書館２階　会議室
※６月７日(金) 午前９時30分から同場所にて、日時指定整理券を配布。

「本の七夕飾り」を飾ります　無料

市民図書館中央カウンター前のバンブーツリーを、「お薦めの本」を記入した短冊で飾りましょう。
期　間：７月１日(月)～31日(水)
※７月８日(月)・22日(月)は休館日

問　市民図書館
☎576-8241

市民図書館所蔵　おすすめの新刊

あたしは本をよまない

コウタリリン：作
ちばみなこ：絵
ＢＬ出版

教室でいつも一人でいるユイは、本を読むのが好きじゃない女の子。感想文がきっかけで、木田くんと草野くんと話をするようになりました。二人にユイは「あたし、本を…」あら大変、思ってもいないことを宣言してしまいます。

伝わる顔の動かし方 ～コミュニケーションは見た目が９割～

間々田佳子：著
光文社

コミュニケーションの悩みは、顔の動かし方ひとつで解決!? 性格を変えなくても表情を変えるだけで相手の反応も変わるとのこと。悩み別の顔のトレーニング方法や体験談も載っています。顔を動かして心と体を整えてみませんか。

人の生き方を考える

変わるべきは…

この春からわたしは、子どもたちの登下校を見守るボランティア活動を始めました。
　数年前に機能性などに配慮した制服が導入されましたが、スカートではなくスラックスをはいている女子中学生にわたしは違和感を覚えていました。
　ある朝のことです。その日が初めての見守りとなる林（仮名）さんと一緒に活動していると、スラックスをはいた女子中学生数人がいつものように楽しそうにやって来ました。林さんは特に気にする様子もなく笑顔で「行ってらっしゃい。気を付けてね」と声を掛けるのです。
　「子どもたちを見ると、こっちも元気になりますね」と言う林さんに、わたしは「最近は女子も男子も見分けがつかなくなりましたが、何か違和感がありますよね」と話し掛けました。
　すると、林さんは子どもたちの後ろ姿を見ながら「言われると、そうかもしれませんね」とつぶやき、少し考えてから「もう数十年も前のことですけどね。妻が出産で体調を崩してしまい、当時は育児休業がなかったので、周囲の冷たさを感じながらもわたしは早退や休暇を繰り返したんです」と話し出しました。そして「時代は変わりましたよね。育児休業は制度化され、多くの人がその必要性を理解したから、女性はもちろん男性の取得者も増えましたね。でも、当時早退したり、休んだりする度に『男のくせに…』や『またか…』と言われ、わたしがくやしい思いをしたように、今もまだ『こうあるべき』という見方によって、取りたくても取れない人もいると思いますよ。確かに、女性や男性で分けることが必要なときもありますが、制服は分ける必要がないと思いませんか？」と投げ掛けられました。
　わたしはそのとき初めて、違和感の原因が自分の中にある「当たり前」や「普通」といった見方にあることに気付いたのです。そして、自分が変われば、制服も育児休業ももっと自由に選べる人が増えると思えたわたしから「変わるべきは、自分なんだ」の言葉が自然ともれたのでした。

誰もがその人らしく暮らしていくためには、まずは一人ひとりが自分の中にある「当たり前」や「普通」といった見方に向き合うことが大切です。